

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 外部評価結果報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970101958
法人名	有限会社 ドリームデベロップ
事業所名	ディーディー学園前Ⅰ・Ⅱ
所在地	〒631-0023 奈良市南登美ヶ丘17-3 (電話)0742-40-4867

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	〒630-8253 奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号室
訪問調査日	平成21年2月5日

## 【情報提供票より】(平成21年1月19日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	15 人	常勤	4 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 9 人

### (2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,850 円	その他の経費(月額)	25,200 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	入居一時金 240,000円 更新契約金 120,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	2,300 円(税別)		

### (4)利用者の概要(1月19日現在)

利用者人数	11 名	男性	0 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	56 歳	最高	97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	西奈良中央病院 阿部クリニック
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、近鉄学園前駅から路線バスにて5分と徒歩10分位の閑静な住宅地に、一般の2階建て住宅として2棟建っている。近くに田畑もあり、季節の変化を楽しむことができる。本来は1ユニット(1棟)9名のところ6名でゆっくり暮らしている。職員は日中2~3名が配置され、利用者が家庭的な環境で、できるだけ自立した生活ができるように支援している。日常的に、手先や頭を使う百人一首やランプをしたり歌を歌ったりして楽しんでいる。昼食と夕食には業者によるクックチル方式を取り入れた、高齢者の口に合うバランスのとれた献立を提供している。また月2回かかりつけ医の往診もあり、医療との連携がとれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題であった地域との交流は、運営推進会議を開催し努力されている。さらに取組んでいただきたい点として、利用者の日常的な外出の支援が望まれる。また、計画を立てて法人内外の研修の機会を確保されることや、「ホーム便り」等による定期的な家族への報告を検討していただきたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票は丁寧に作成されているが、全職員による取組には至っていないものと思われる。管理者と職員でよく話し合い、できる限り全職員で自己評価に取組まれることが期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年に3回運営推進会議を開き、民生委員、行政職員、家族等の参加を得ている。ホームの見学を行ったり、避難訓練や家族交流会に合わせて開催する等の工夫をして、認知症の理解や災害対策等について話し合っている。今後は、自治会の参加も得られるよう働きかけていただくことが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問の際に、意見を聴いたり相談を受けるよう配慮している。また年1回家族交流会を開催して、率直な意見を聴くようにしている。それらの意見は検討して、サービス改善につなげている。サービス内容説明書に苦情相談窓口と担当者を明記している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、昨年度は役員を引き受けて、ゴミ置き場の清掃や広報誌の配布を利用者と共に行った。</p>

## 2. 外部評価結果報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心安らぐ環境で、いつも穏やか助け合い、今日一日を豊かに暮らす、笑顔あふれるマイホーム」が独自の理念として玄関に掲げられている。運営規定やホームページには「地域住民と共に」の方針が謳われている。	○	地域密着型サービスとしての理念を、契約書やパンフレットへも記載されることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員の採用時に理念を伝えている。職員は常に理念を意識して利用者のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、昨年度は役員も引き受けて、ゴミ置き場の清掃や広報誌の配布を利用者と共に行った。今後は、家族交流会に地域の方々を招待すること等も検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は理解できており、自己評価票は丁寧に作成されているが、全職員による取り組みには至っていないものと思われる。前回の外部評価の結果を改善の取組みにつなげている。	○	自己評価は管理者、職員で話し合い、できる限り全職員で取組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、ホーム見学を行ったり、避難訓練や家族交流会に合わせて開催する等の工夫をされ、地域住民や地域包括支援センター、行政職員等の理解を得るための努力をしている。自治会からの参加も働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政へ提出書類を持参したり、制度上の不明点を尋ねている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に変化があった時の報告は、電話等でその都度行われている。金銭管理の報告書は、毎月送付している。	○	ホームでの利用者の様子を知らせたり、行事の予定や職員の異動等を報告する「ホーム便り」を定期的に発行されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問の際に、意見を聴いたり相談を受けるように気配りしている。また、年1回開催される家族交流会においても、その機会を設けている。サービス内容説明書に苦情相談窓口と担当者を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしている。基本的には、ユニットの職員を固定化し、馴染みの関係を大切にしている。やむおえず担当職員が替わる場合も利用者に配慮した引継ぎを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の必要性は充分理解されているが、職員の人員不足等もあり研修の機会を確保できなかった。これからは積極的に取り組んでいかれる予定である。	○	研修計画を立て、法人内外の研修の機会を確保されることが望まれる。また受講した場合には研修記録を会議等で報告し、全職員が閲覧できるような仕組みを作られることが求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度開かれる地域包括支援センター主催の「奈良市西部ネットワーク会」に出席して、同業者との交流に努め情報交換している。また講師として招かれることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学会、体験入所も受け付けている。本人や家族等と充分話し合っ、納得してもらってからサービスを利用させていただくよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、適切な言葉かけをして、共に和やかに過ごしている。また、年齢差のある利用者どうしが会話を楽しみながら、互いに支え合っており、職員はその様子を静かに見守っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や思いを記録し、日常会話の中でも、本人の意向を汲み取るようにしている。それが困難な方については、家族の訪問時や電話等で聴かせてもらっている。食べたい物があれば、誕生会等の行事で提供するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の意向をよく聴いた上で、その人らしく暮らせるように配慮して介護計画を立てている。職員の意見も反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3～6ヶ月毎に、ユニットの主任を中心に行っている。変化が生じた場合は、臨機応変に対応しているが、介護計画目標の達成度評価が行われていない。	○	定期的にケア会議を開き、目標の達成度評価を行って、現状に即した新たな介護計画の作成が望まれる。家族との話し合いや説明の機会もできるだけ多くもたれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	前もってわかっている通院は、家族、民間ヘルパーに送迎を頼んでいる。緊急時のみ職員が付き添っている。	○	本人や家族の要望に応じて、柔軟な支援が望まれる。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。嘱託医(内科)が週に1度往診し、緊急時の対応も行っている。又3ヶ月に1回歯科医の検診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化及び看取りに関する指針」の文書を入居時に渡し、説明している。非常勤の看護師を配置して、必要になった時に、できるだけ本人、家族の希望を聞ける体制が整っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に気をつけながら、本人の気持を大切に、心安らかに生活できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は手作りであるが、昼夕食は給食業者のクックチル方式を取り入れた美味な食事を提供している。利用者の可能な範囲で食事の片付け等を担当してもらっている。	○	さらに家庭的な雰囲気になるように、職員も食卓を囲んで共に食事をしたり、座ってゆっくり食事介助されることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回夕方の方の時間帯に、安全面を配慮して、同性介助でゆっくり入浴を楽しんでいただいている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食器の片付けなど、得意分野で力を発揮してもらっている。また百人一首、トランプや歌を唄うなど職員と共に和やかに楽しんでいる。誕生日会や年1回の家族交流会は家族を招いて開催している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と一緒に庭に出たり、近隣の散歩に出たりしているが、日常的な外出はなかなか困難である。家族やボランティア等の協力が得られるよう検討している。	○	利用者が重度化している場合も、短時間でも戸外に出て季節を肌で感じ、気分転換できるよう支援されることが求められる。又車イスの利用者も外出しやすいように、玄関やベランダの段差を解消されることが望まれる。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りが行き届いており、日中は鍵をかけずに、利用者の自由な暮らしを支援している。入浴時は施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を作成し、年2回防災訓練を実施している。自治会に協力を得られるように働きかけているが、地域住民の高齢化もあり実現は難しい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。給食業者の管理栄養士がカロリーを計算し、高齢者に適切な献立を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の住居を使用しているので、共用の空間はもとより、家具等も家庭的な感じがする。足の不自由な利用者のために、二階への階段に昇降機が設置されている。利用者と職員で作った貼り絵が季節感を感じさせている。トイレは車イスで使用するには、少々狭く感じる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納スペースが広くて、部屋がすっきり片付けられている。居室には本人の馴染みの物や、大切な物が持ち込まれ、居心地のよい空間になっている。		